



海外の 地方自治体

瀋陽市 (遼寧省)

北京事務所所長補佐 林 泰明 (島根県派遣)

瀋陽市は文化遺産を数多く有する東北地方最大級の都市です。17世紀以降たびたび歴史の舞台となったこの地は、1950年代以降は中国を代表する重工業都市として栄えました。そして今日においては、中央政府の「東北地区振興政策」のもとインフラ整備が急速に進められ、新たな姿へと変貌を遂げつつあります。本稿では中国東北部の中心都市、瀋陽市を紹介します。



概要

遼寧省の省都である瀋陽市は、面積はおよそ13万km²、人口は約780万人の中国東北部を代表する都市です。市内の南部を流れる渾河の古名である瀋水と、風水で「陽」に位置する北側、つまり「渾河の北側」を意味するところが瀋陽という地名の由来となっています。気候は大陸性モンスーン気候に属しており、はっきりと移ろう四季を持ち、真夏は30度を超すこともある一方、真冬の時期は氷雪に覆われ、気温は零下30度に達することもあります。

瀋陽の歴史は大変古く、7,200年前には定住集落があったことが知られています。17世紀に入ると女真族(満州族)ヌルハチが明を破り、女真族国家である後金の都を現在の瀋陽に移し、盛京と名づけられました。以後、国号を清と改めて北京に遷都が行われたあとは清王朝第二の都とされ、1657年には奉



瀋陽故宮 (大政殿)

天府が設置されました。清王朝建国の礎を築いたヌルハチと清朝初代皇帝のホンタイジが実際の政務を行った瀋陽故宮は、都市化が

進む市内中心部において現在でもその姿を残しています。

故宮というと北京の故宮博物館を思い浮かべる方も多いと思いますが、この瀋陽故宮も「北京と瀋陽の明・清王朝皇宮」として世界文化遺産に登録されています。瀋陽市内には他にもヌルハチが眠る福陵、ホンタイジが眠る昭陵といった陵墓が世界文化遺産に登録されており、他にも数多くの文化遺産を有していることから中国国務院が定める歴史文化都市に指定され、数多くの観光客が瀋陽を訪れています。

20世紀に入ると、近辺に産出する石炭や鉄鉱石などの天然資源を背景に重工業が発達し、1950年代以降は中国を代表する重工業地帯として発展してきました。現在では自動車関係産業、石油化学工業、ハイテク産業の企業が集積しており、中国国内の代表的な工業都市ということが出来ます。経済指標を見ると、瀋陽市の2009年のGRP(域内総生産)は4,359億元(約5兆5,000億円)と前年比14.1%の伸び率を示しました。他の主要経済指標を見ても固定資産投資、規模以上工業生産、社会消費品小売総額は18~20%の増加を示しており、地方政府の歳入(地方財政一般予算収入)についても約10%増加し、著しいスピードで経済成長を遂げていることがわかります。

こうした高度成長の中、10年前の瀋陽市内の様子をよく知る人物はこう言います。「以前、市内にはよきよきとたくさん突き出た煙突があったけれど、

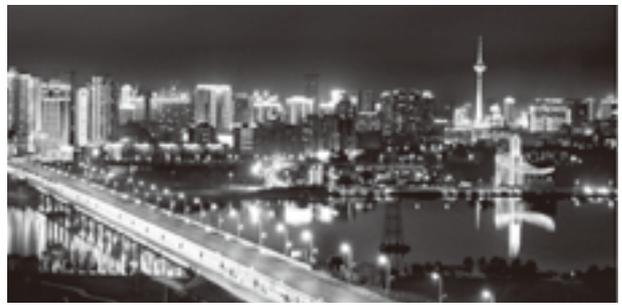
今は一本も見ることがなくなった」と。近年、瀋陽市が以前とは異なる姿へと変貌していることは明らかです。

それでは次に、瀋陽市ではこういった取り組みが進められているのか、という点について紹介します。

東北振興と瀋陽経済区

中国政府が2004年の重要プロジェクトの一つに位置付けたものとして「東北振興政策」があります。これは、遼寧省・吉林省・黒龍江省の東北3省の国有企業を、民間資本と外国資本の導入などによって市場機能に適応した近代的企業に改革し、新型産業拠点にしていくことで地域全体の再生を図るというものです。傾斜投資に頼らずに柔軟な政策の実施が可能であることが特徴で、同地域の国有企業改革の環境整備として、年金制度などの社会保険改革が全国に先駆けて行われました。現在では社会保険改革は全国規模で普及しつつあります。

こうした中、中国では来年2011年から次期中長期計画ともいえる第12次5カ年計画が始まります。そして、この次期5カ年計画の中でも「東北振興政策」が引き続き実施されることとなっています。この中で、瀋陽市は東北部の中核拠点として、一方ではこの「東北振興政策」を背景に発展を遂げようとする各都市を支える役割を果たすとともに、もう一方では自らが発展の牽引役を担ってきたといえます。例えば交通の状況でいいますと、瀋陽は以前から東北部の主要鉄道幹線5本がすべて経由しているほか、道路網は、瀋陽市を中心に北京、大連、ハルピンといった主要都市に放射状に伸びており、まさしく交通の要衝に位置しています。そのため、瀋陽市には東北振興により発展する東北部各都市からヒト・モノ・カネ・情報が流れ込んできます。そのため瀋陽市では、その流れの変化に呼応し、適応する開発が進められています。事実、増加する域内輸送にあわせ、瀋陽を中心とする鉄道の整備や軽量軌道交通(ライトレール)の敷設、都市間高速交通ルート(建設が急ピッチで進められているところ)の建設が急ピッチで進められているところ。他にも、日本からも大手銀行が支店を設置するなど、金融関連企業の進出が加速しており、多くの分野で拠点都市としての機能強化を垣間見ることができます。



瀋陽市の夜景(渾河から市内をのぞむ)

以上を含めた一つの改革のモデルとして瀋陽市を中心に以前から計画され、実施に移されているものに「瀋陽経済区」があります。これは、瀋陽を中心に周辺の7都市(鞍山、撫順、本溪、營口、阜新、遼陽、鉄嶺)からなる半径100kmで構成されるエリアの開発計画の総称であり、圏域の総人口は約2,400万人、都市化率および遼寧省内のGRP構成率はともに65%に達しています。

2010年4月6日、この瀋陽経済区は中国国務院により国家級の経済開発区として認定され、国家新型工業化総合配置改革のモデル区とすることが承認されました。これにより、時代の要請と地域の特性に合わせて、各地域が自主的に投資環境の整備や産業集積に向けた取り組みを行うことが可能となり、経済成長、行政システムの強化がより一層加速していくことが期待されています。

渾南新区・瀋陽環境保護産業モデル基地

発展を続ける圏域の拠点として、瀋陽市自体もその都市機能を充実させる必要が生じていることから、新たな都市発展計画が定められ、その建設が進められています。この都市機能移転を含めた一帯の開発は市内を流れる渾河の南側に計画されており、「渾南新区」として建設が開始されています。そしてこの渾南新区の政治、文化、行政、商業、市民生活、そしてさらには科学技術の拠点として「渾南ニュータウン」の建設が計画されています。

この渾南ニュータウンの設計プランは全世界から公募された結果、日本の鹿島建設株式会社の提案が採用されています。また施工にあたっては、瀋陽市で現在積極的に推進されている現代建築産業の振興を通じて、瀋陽のような寒冷地でも冬季に大規模な施工が可能な手法が多く採用される予定となっ



東西・南北に都市機能を計画配置した渾南ニュータウンの計画図

います。この手法には多くの日本企業の技術が反映されています。2013年、瀋陽市では「第13回全国運動会」の実施が予定されており、都市機能の移転についてもこの2013年を一つの目標年度として、瀋陽市の未来の副都心の整備が行われているところです。

また、あわせて瀋陽市では未来に向けたエコモデルの都市整備にも力を入れています。その一つが「瀋陽環境保護産業モデル基地」です。この基地は4つの産業パーク（廃棄物分解団地、精錬加工リサイクル団地、無害化处理団地、新エネルギー産業団地）からなり、環境関連企業が集積しています。他にも全市域をカバーする廃棄物回収流通システムの構築や、循環型経済技術の研究開発、汚水処理およびごみ処理技術の向上が推進されています。前述の煙突の例は、工場等の移転や、環境基準の設定による環境負荷の低減により様変わりした街をあらわしたものとと言えます。

この瀋陽市のエコモデル化の推進においては、環境技術研修生の派遣研修などを通じて友好都市である川崎市の経験と技術も大いに参考にされているところです。特に2009年には環境省と瀋陽市との間で「川崎市及び瀋陽市の環境にやさしい都市の構築に係る協力に関する覚書」や川崎市と瀋陽市との間で「循環経済発展協力に関する協定」が締結され、これまでの技術交流を一層活発化しているところです。

日本の自治体との交流

先に述べました環境分野における瀋陽市と川崎

市の協力関係は、1981年の友好提携に端を発しています。このほかにも1980年からは札幌市との間で友好提携を行っており、2010年は友好提携30周年を迎えました。これを記念し、北東アジア6カ国の参集のもと、瀋陽市が開催した「東北アジア経済発展フォーラム」において札幌市の上田市長が講演されたほか、これまでの交流のさらなる発展に向けて両市間で新たに、①環境保全分野における交流協定書、②観光産業における交流協力協定書が取り交わされました。また、2010年からは浜松市との間で経済、観光、教育、科学技術、文化、スポーツ等の分野での交流を盛り込んだ友好交流都市協定が締結されたほか、日本国内の各地との交流も積極的に行われています。

他にも2010年には東北3省に内モンゴル自治区を加えた4つの地方政府と日本の北海道、東北地方を中心とした行政、経済関係者からなる日中経済協力会議の第10回目となる会議が瀋陽市で開催されるなど、活発な日中地域間交流の場ともなりました。

さらに、2010年5月30日には瀋陽市に日本の地方自治体の情報発信と相互交流を促進する場として「日本地方自治体交流プラットフォーム」が設置されました。ここでは日本各地の観光、物産、企業情報などの情報を、主に中国国内東北部に向けて発信していく役割を果たすほか、各分野における日本と中国の相互交流の場となるものとして期待されています。瀋陽市では日本の高度な技術を有する中小企業の誘致を活発化させているところですが、誘致企業の情報発信、ビジネスマッチングの場をこのプラットフォームが提供するなどの役割を果たしています。

おわりに

瀋陽市と日本の各地とは古くから交流の実績を有しており、瀋陽市は日中地域間交流の重要な拠点といえます。ますます発展を続けるこの瀋陽市は、中国のみならず北東アジア地方の重要な拠点都市となることが期待されています。瀋陽市との多様な関係強化は日中双方の発展にとって重要であることはもちろん、国境をまたいだ北東アジアの連携強化においても意義のあるものとして、ますます重要になっていくことでしょう。